

独立行政法人地域医療機能推進機構 佐賀中部病院

令和7年度 第2回地域連絡協議会議事録

【日時】令和7年11月25日（火）18:00~19:00

【場所】佐賀中部病院 2階会議室

【出席者】吉原正博（佐賀市医師会長） 枝國源一郎（佐賀市医師会理事） 阪本雄一郎（佐賀大学医学部附属病院救急医学講座教授） 中里栄介（佐賀中部保健福祉事務所保健監） 牛島省吾（佐賀市保健福祉部部長） 松見正宣（地域住民代表） 園畑素樹（院長） 岡洋右（副院長） 内田賢（副院長） 中島武馬（地域医療連携室室長） 辻信介（健康管理センター長） 國重顕（事務長） 時里玉栄（看護部長）

以下当院会議支援参加者

横尾由紀子（看護師長） 山下将司（副看護師長） 石田智子（看護師） 服部真和（MSW） 一尾忍（事務長補佐） 榎並竜大（事務長補佐） 重松政樹（事務長補佐） 片淵博嗣（管理課長補佐）

【書記】服部真和

【概要】

1.令和7年度病院経営状況報告について 事務長より

佐賀中部病院運営状況報告資料を参照

2.病院の現状と今後の取り組みについて 病院長より

○病床利用率、救急受け入れ関連

・病床利用率は95%の維持を目標としている。2023年のアフターコロナから半年間で95%となり、現在も維持に努めている。

・三次救急を疲弊させないために、一次二次救急に注力する。そのために検査技師、看護師、医師の配置を増員した。

・救急受入については、ほぼ近隣の地域、もしくは東部地区からの搬送件数が多かった。応需率は2024年は70~80%台が多かったが、2025年は94~95%程度くらいとなっている。95%以上を目標として目指していきたい。

○手術件数について

・年々増加しており、2025年全体で2000例を超える予測となる。

・整形外科は年間1600例を超える予測。1週間で40例を超えることもある。

・増加した要因としては、地域の開業医の先生や救急隊から信用してもらい、紹介・搬送してもらっている。

・その他、新医療機器の導入も関連している。2024年には佐賀県、長崎県初のメイコー（Mako）システムの導入。2025年には、6月よりクーリーフ（Coolief）を保険適用で導入

した。変形性膝関節症の患者が対象である。内服や注射治療がうまくいかない、手術になる前段階的な治療で、対象者の範囲も広く、痛みを緩和する治療であり、佐賀市内では初の導入となっている。治療ができる医師はライセンスをもつ医師で、当院では7名の医師が対応できる。

- ・手術室の増室計画について、当院は現在3部屋の手術室だが、4部屋へ増室に向け計画をしている。2026年春頃には工事が開始され、秋頃には完成を目指している。

○地域医療連携室について

- ・地域医療連携室を通しての転院相談について、2023年頃は問い合わせから回答まで4~5日程度時間を要していた。

- ・業務改善を行い、「24時間以内の回答」→「1時間以内の回答」→「10分以内の回答」ができるようになった。

- ・医者が関与せず、地域連携室での判断を行うために、「ネガティブリスト」（超高額薬剤、精神科の専門管理が必要等）を作成した。

- ・4月から開始したが、7ヶ月間では78%、直近3ヶ月では90%近くの相談を10分以内で返事ができるようになった。

○地域住民との交流も大切にしたい

- ・11/2（日）「ひざと股関節の健康を考える」について市民講座を開催。

- ・11/15（土）「睡眠時無呼吸症候群」について市民講座を開催。ぶんぶんテレビで放映予定。

- ・11/22（土）佐賀中部病院附属介護老人保健施設で秋祭りを開催。ぶんぶんテレビで放映予定。

- ・公民館出張セミナーについて、整形外科（膝、股関節、手、肩）を中心に行っている。今年度は27回の予定をしており、現在17回の開催をしている。

○ペイシェントハラスメント対策

- ・防犯ブザーを全職員へ配布。

- ・これまではハラスメントについての漠然としたポスターを院内に掲示していたが、抑止力を期待し、防犯ブザーを所持しているポスターに変更した。

- ・佐賀新聞やぶんぶんテレビからの取材も受ける。

- ・NHO 佐賀病院からも問い合わせあり、導入している。

3.（質疑応答）

（吉原会長）

毎年毎年収益が上がっていることは素晴らしい。整形外科の医師を増員したことが大きな要因であろうが、これまで断ったことはないか？

（園畑院長）

整形外科に関しては、断りはほぼないといえる。当院で対応できない症状（脊椎損傷等）でも、まずは診察をして、ファーストタッチはするように心がけている。

(吉原会長)

精神科疾患がある整形外科の患者対応は難しくないか？

(園畑院長)

非常に難しい。精神科疾患のコントロールが必要な患者は当院では受け入れが難しいこともあるが、救急隊から「精神疾患ある」と言われても、個人差があるため一度診てから対応を考えている。救急隊ともコミュニケーションをその都度行って適切な対応を検討している。

(枝國理事)

メディカルコントロール委員会でも、身体と精神どちらの症状か考えることで、搬送が遅くなったりすることも問題としてある。精神科病院協会窓口となるとあるが、あまり機能していない現状。ただ身体か精神科ボーダーラインを決めるのは難しいことだと思う。

(阪本教授)

大学病院では、精神科の病棟に救急で入れるような体制とは言えない。身体症状ない精神科の救急患者も一旦は救命センターで受け入れるようにしている。

(枝國理事)

佐賀中部病院の救急搬送件数の統計について、件数が下がっている時期があるが、何が要因か？

(國重事務長)

佐賀市内全体で件数が減っている時期であった。

(枝國理事)

ペイハラスメントは非常によい対策であるが、警察との連携はどうしているか？

(園畑院長)

当院で4月頃、特定の医師に対して殺人予告があった。当該加害者は有罪となり1年間拘留されている。1年経てば出所するため、警察とも相談し、警察の立ち寄り所に登録してもらっていることと、当院の電話番号も登録してもらっているため、何かあればすぐに協力してもらおう体制としている。

(阪本教授)

利益が伸びているということは、麻酔科の人件費が増えているが、それ以上に手術の件数が増えて利益が伸びているということか？

(園畑院長)

その通りであるが、数字だけをみると黒字だが、実感としては毎日綱渡り状態。来月どうなるかわからないという思いでやっている。

(坂本教授)

救急車の応需率が高いが、内科の関わりはどうか？

(園畑院長)

実際、整形の救急数は増えているが、整形と整形以外どちらが多いかというと、1対3くらいの割合で整形以外が多い。当院が経営的に非常に危険だと言う意識を副院長とも共有し、両副院長から当直する医師へ声かけをしている。

(岡副院長)

当直医がその日のうちに帰れるように、なるべく担当課で協力するように努めている。

(阪本教授)

数字の共有はしているか？

(園畑院長)

力をいれている。特にJCHOグループ57病院のありとあらゆる数字を共有し、当院がグループの中でどういう位置にあるか職員に伝えるようにしている。当院と同規模の病院やその他病院でも、当院に取り入れることがないか職員と共有し模索している。

(中里様)

印象として職員を大切にしている病院は離職率が低い。新入職員の面接でハラスメント等について説明している内容があれば教えて欲しい。

地域の医師との連携している中で、何科からの紹介が多いか？

(園畑院長)

佐賀中部医療圏でも兵庫地区、東側地区が診療科問わず圧倒的に多い。時折、整形の紹介で伊万里や唐津地区からの紹介があるが、基本的に地域医療圏からの紹介が多い。

ハラスメントについては新入社員の面接時には現時点で説明まではしていない。JCHOの中でも様々な病院評価がある。その中に看護師の離職率もあり、離職率が高いと病院評価も下がるため、職員に対しては全力でフォローするように心がけている。

(牛島様)

佐賀市内の救急搬送実績として、去年は非常に熱中症が多かったが、今年の8月は雨が多く、例年よりも救急搬送件数が全体的に少なかった。

(松見様)

報告にあった、整形外科を中心に手術件数が増えたことについて、病院経営の基本は手術を増やすことである。手術が増えれば患者も増え経営の安定も繋がる、今後とも続くことを願う。自分自身も佐賀中部病院へ患者として来ている。以前からするとものすごく患者も増えて待ち時間も3倍くらい増えた。通院者が増えることは患者からの信頼の証と思うのでいい方向に向かうことを願う。

また、11/2 開催の市民講座について、福岡県の筑後地区にもチラシが入った。
実際には筑後から佐賀中部病院まで 20 分程度で到着する。佐賀中部病院はどのあたりのエリアまでの患者を対象としているのか？（受入として）

（園畑院長）

神埼・吉野ヶ里は当院としては大いに対象としている。鳥栖や大川地区は地域における病院が多数存在している。ただ、大川・柳川地区の消防署にも挨拶回りはしており、何かの事情で近隣病院が受け入れできないときに、当院が役に立てればと思う。毎週 4 病院程度、地域連携室中島室長を中心に病院訪問活動を行っている。佐賀中部病院の医療範囲が少しでも広くなればいいと思う。

（以上）